栗の消費動向に関するアンケート調査の結果

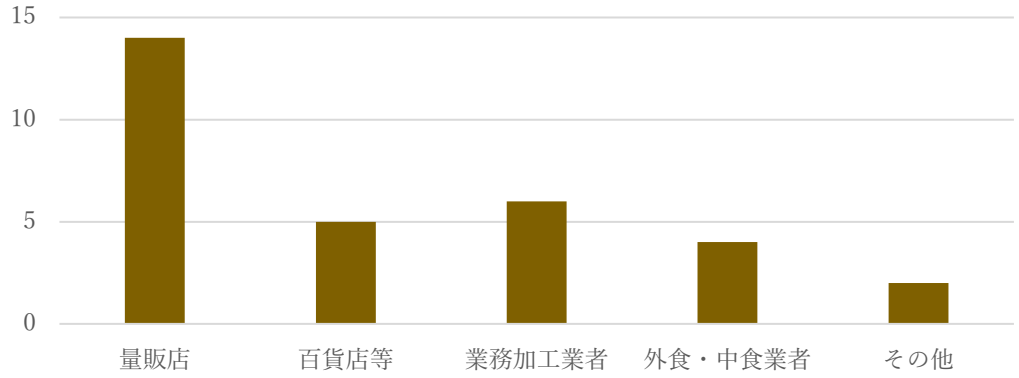
茨城県産栗の消費拡大のため、卸売会社を対象に末端ユーザーの消費動向等に関してアンケート調査を実施した結果をまとめました。（※回答社数：16 社、部分回答を含む。）

＜結果概要＞

> 栗の主な仕向け先は量販店で、高齢世代の女性を中心に旬や時期と価格を意識して購入されているが、近年の需要は減少している。業務向けは加工品店や飲食店で菓子類を中心に、価格と旬や時期を意識して利用されているが、近年の需要は減少傾向。今後、栗の消費を増やすためには、選果の徹底と出荷時期の調整が効果的と考えられている。

１，卸売会社における主な仕向け先

栗の仕向け先は量販店が中心（１卸売会社における仕向け割合は 10～100%）であり、他に業務加工業者（0～90%）、百貨店等（0～15%）、外食・中食業者（0～10%）、その他（0～35%、内訳は八百屋など）でした。

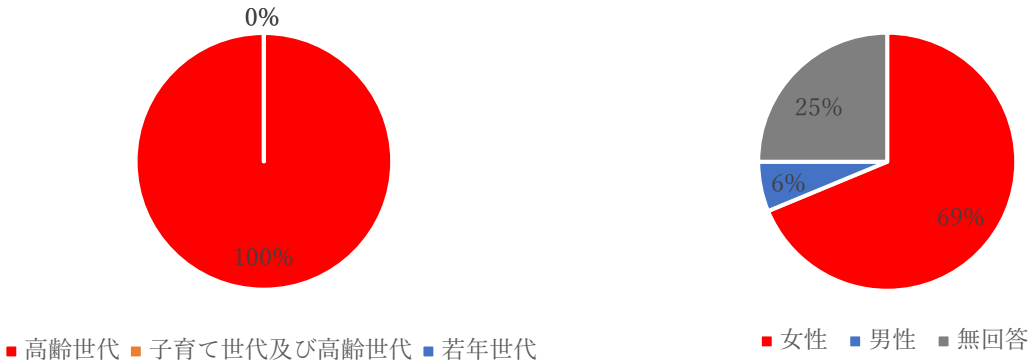


図：仕向け先の回答数（単位：社、有効回答数 14、複数回答可）

主に扱っている規格としては、量販店向けには２Ｌ、３Ｌが中心であるもののM～４Ｌと扱われるサイズ幅は広く、百貨店向けには３Ｌが中心で２Ｌ～４Ｌと大玉の規格となりました。また、業務加工業者及び外食・中食業者向けには、Ｓ～３Ｌと卸売会社により扱う規格にばらつきがあったものの、他の仕向け先よりも小さめの規格が扱われる傾向がありました。

２，量販店における需要動向

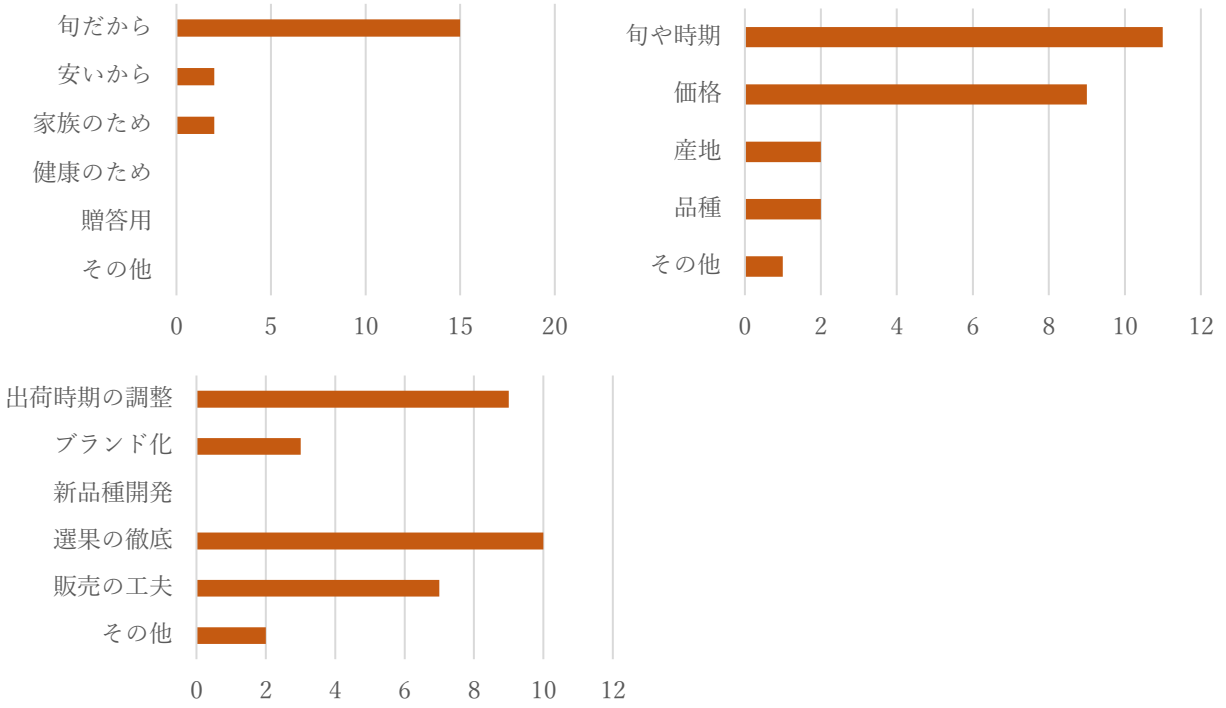
近年の量販店における販売量は、「増加している」が 6%、「変わらない」が 25%、「減少している」が 69%で、需要減少の傾向がありました。主な購入者層は、年代別では「高齢世代」が 100%、性別では「女性」が 69%で最も多い回答でした。



左図：量販店における主な購入世代、右図：量販店における主な購入性別（有効回答数はともに 16）

主な購入者層に好まれる特徴としては、「大玉サイズで剥きやすい」が多く挙げられましたが、「価格の折り合いがつけば」と付け加える意見もありました。また、品種では「利平」と「ぽろたん」がありました。

消費者が購入する理由は「旬だから」が突出して多く、消費者から特に意識されていると感じることでは「旬や時期」が最多、次いで「価格」でした。その他では「品質」が挙げられました。個人消費を増やすために効果的な取組としては「選果の徹底」や「出荷時期の調整」が多くなりました。

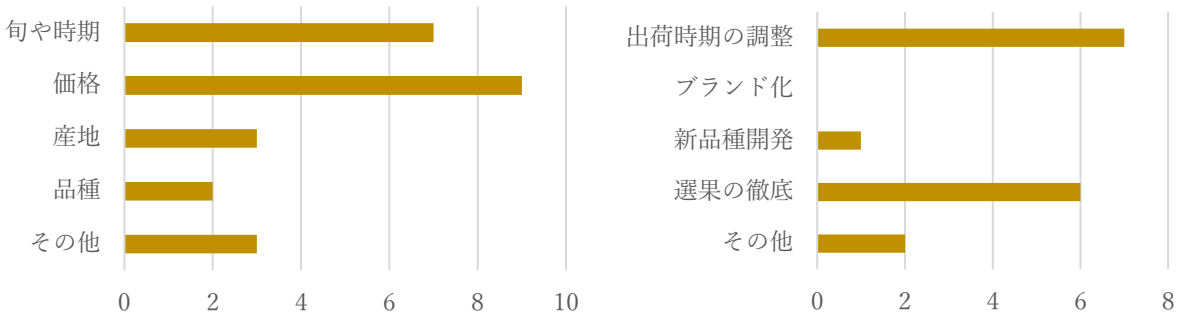


左上図：主な消費者の購入理由、右上図：消費者の購入特に意識されていると感じること、左下図：個人消費を増やすために効果的と感じるもの（単位：社、有効回答数 16、複数回答可）

3，業務向けの需要動向

近年の業務向け販売量は、「増加している」が 7%、「変わらない」が 43%、「減少している」が 50%で、量販店向けと同様に需要減少の傾向がありました。主な購入者は、加工品店や飲食店、製菓店、ホテルといった回答があり、用途は菓子用ペーストやケーキなどのスイーツでした。

業務向けで特に意識されていることとしては、「価格」と「旬や時期」が多く回答されました。その他では「サイズ」という意見が挙げられました。業務需要を増やすために効果的と感じる取組としては、「出荷時期の調整」と「選果の徹底」が多く回答されました。その他では「L 以下のサイズを多くする」という意見が挙げられました。また、「業務需要では栗生産者の手取り額は上がらないので生栗の消費拡大が重要と考えている」という意見もありました。



左図：業務向けで特に意識されていること、右図：業務需要を増やすために効果的な取組（単位：社、有効回答数はともに 13、複数回答可）

４，産地への要望など

産地に対して改善が必要と感じていることでは、「早生品種ではその後の産地の評価を左右するため特に傷みや虫食いの対策や選果の徹底をしてほしい」、「雨が多い時の湿気対策をしてほしい」、「品質維持のための低温輸送」、「虫食いを無くすために燻蒸する」など、品質に関する意見が多く挙げられました。

５，販売促進のための取組

効果的に感じる取り組みでは、「試食宣伝」が最も多く挙げられたほか、「メディアによる宣伝」や「ブランド化」、「スイーツを作ることで若年層にも売れる」といった意見がありました。

また、消費促進のために産地に取り組んでほしいことは、「選果の徹底」や「出荷前の予冷処理」、「品質向上」、「殺虫」といった品質に関する意見が多く挙げられたほか、「メーカーやスイーツ店とコラボした宣伝販売」や「マスコミ、SNS での魅力発信による需要喚起」といった、宣伝に力を入れてほしいという意見も多数ありました。さらに、「専用 500g ネットの作成」や「学校給食」といった意見もありました。